

2月15日 定期総会開催

設立から12周年を迎えた2019年は、夕張市石炭博物館で4月18日深夜に模擬坑道火災が発生する一方で、5月には《炭鉄港》が日本遺産に認定され、12月には北海道地域文化選奨特別賞の受賞が決定するなど、波乱万丈の年となりました。

[活動計画に対して: ○=達成 △=途上 ×=未了]

■ 報告 2019年 ■

■ 出版事業

△ブックレット・解説資料の刊行:《炭鉄港》の日本遺産認定に伴って、《炭鉄港》に関するブックレットを刊行しました。

■ 炭鉄遺産事業

○「炭鉄港」日本遺産との連動による炭鉄遺産のクローズアップ: 5月の《炭鉄港》日本遺産認定に伴い、炭鉄港推進協議会の活動を積極的に支援しました。日本遺産効果は著しく、講演などさまざまな形での依頼案件が相次ぎ、炭鉄の記憶への理解は一段と広がりました。また、炭鉄遺産で次のような催事を開催したところ、約4,000名の参加がありました。

○《炭鉄港》日本遺産との連動による小樽・室蘭との広域連携の強化:《炭鉄港》日本遺産認定によって、小樽・室蘭でも様々な動きが生まれ、炭鉄港市町村議員連盟との協調して3地域を結ぶ関係性の強化を図りました。

■ 学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流強化: 2019年も(株)島津興業からの受託調査が継続されたことにより、鹿児島と北海道との歴史的経緯を踏まえた活動を、例年以上に密接に展開することができました。

また、2019年11月に仙巖園内にある反射炉(世界遺産構成資産)の前にオリエンテーション施設が開業しましたが、ここでも鹿児島と北海道の関係についてアピールしているほか、ここで販売予定の解説ブックレットの編集を当NPOで行っているところです。

×《夕張CM》をはじめとした学術機能支援の充実: 坑道火災への対応で実施できませんでした

■ 市民団体連携事業

○シーニックバイウェイ展開などを通じた他管内の機関・団体との連携:《炭鉄港》など活動の様々な局面を通じて、地域内外の機関・団体と良好な関係を築く取り組みは、マネジメントセンターの一連の活動の中で展開しました。

○国内外の関係者・団体への対応: マネジメントセンターには各地各所から多様な求めが寄せられ、積極的に対応しました。

■ 拠点施設事業

○そらち炭鉄の記憶マネジメントセンターの安定的運営: 限られた経営資源のなかで《岩見沢MC》の開館を継続し、地域のワンストップ拠点としての機能を発揮することができました。2019年1~12月の入館者数は4,998名(2017年4,436名・2018年4,763名)で、ほぼ安定的に推移しています。

○《岩見沢MC》開設10周年記念事業の開催: 開設から10年を迎えたことを記念して、8~9月に10周年企画展示「プログでたどる回顧展」を開催するとともに、記念トークショーを2回開催しました。

■ ヘリテージツーリズム事業

×《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進: 坑道火災への対応で実施できませんでした。

■ 石炭博物館事業

△運営体制確立によるサービス業としての基礎要件の充足: 4月18日深夜に模擬坑道で火災が発生し、消火活動への協力、道央圏各自治体消防隊へのホール提供など、災害対応にあたりました。

会員の皆さまには多大なご心配をおかけしたことをお詫び申し上げるとともに、寄せられたご支援に対して深く感謝申し上げます。

6月8日から本館・地下展示での営業を再開しましたが、2019年の入館者数は当初想定20,000人に対して13,278人(前年度32,435人:▲59%)となり、減収額は120万円にのびました。10月まで設置者側から何らの説明も相談もない状態が続いたことから、10月の人事異動を機に申し入れを行い協議を開始し、3,611千円の2019年度分指定管理料の増額、協定書の見直しを行うことで、12月末に合意しました。

△指定管理業務の着実な実施と博物館の質的充実に向けた展開: フロント部門の改善については、7月に(株)島津興業から経営アドバイスのための人員派遣を受け、来館者アンケートの恒常の実施、SNSでの情報発信の強化などに取り組んだ結果、来館者からの評価は大きく改善しました。しかし、懸案の展示内容の強化は全く取り組みを進めることができずに終わり、次年度に向けた喫緊の課題となっています。

■ 会務

△会員サービスの充実: 2月の会員交流会開催、石炭博物館優待券配布など、会員サービスの向上に努めました。

×新たな運営体制の整備: 岩見沢MC《赤平GC》《夕張CM》の3拠点体制下で、法人の安定・発展に向けて、専従役員体制など新たな体制構築が不可欠な状況にありますが、《夕張CM》の安定運営に時間を要していることから、次年への課題となりました。

○会員数: [2019年12月末] 総数=351名(昨年末337名)、運営会員=55名(同52名)、一般会員=273名(同263名)、賛助会員=23社(同22社)、[動静] 入会=34名(同35名)、退会=20名(同20名)、種別変更=1名(同1名)

■ 計画 2020年 ■

■ 出版事業

- ブックレットの発刊
- 関連資料の制作

■ 炭鉱遺産事業

- おらぶらまち歩きの開催
- 奔別敷地公開の実施

■ 学術支援事業

- 歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続
- 地域シンクタンクとしての展開

■ 市民団体連携事業

- 《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携
- 国内外の関係者・団体への対応

■ 拠点施設事業

- そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの位置づけ・機能の見直し

■ ヘリテージツーリズム事業

- 《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進
- 鹿児島との相互交流事業

■ 石炭博物館事業

- 指定管理業務の着実な実施
- 博物館の質的充実に向けた展開

■ 会務

- 会員サービスの実施
- 企業賛助会員の拡大
- 新たな経営戦略と運営体制の検討

■ 財務諸表 ■

■ 2019/12/31の財務状況

科 目	2019 決算		
資産の部			
流動資産	現 預 金	3,876	北洋銀行普通預金など
	売 掛 金	81	夕張ネクスト
	棚 卸 資 産	395	販売用書籍
	前 払 費 用	150	前払家賃3ヶ月
	未 収 収 益	3,611	石博指定管理料追加
	仮 払 金	685	税中間納付
小計	8,798		
固定資産	什 器 備 品	1,441	除雪機・大判プリンター
	減価償却累計額	▲ 756	
	敷 金	50	事務所敷金
	小計	735	
資産合計	9,533		
負債の部			
未 払 金	1,159	電力料、法定福利費	
前 受 金	1,335	島津興業	
預 り 金	0	源泉所得税 社会保険料	
負債合計	2,494		
正味財産の部			
前期繰越正味財産	6,596		
当期正味財産増加額	443		
正味財産合計	7,039		
負債および正味財産	9,533		

単位：千円

■ 活動計算の 2019年決算・2020年予算

科 目	2019 決算	2020 予算
経常収益		
受 取 会 費	2,135	3,300
寄 付 金	2,875	300
事 業 収 益	35,194	28,000
補 助 金	2,900	1,500
そ の 他	0	0
経常収益計	43,104	33,100
経常費用		
人 件 費	14,980	15,500
出 版 事 業	618	800
ツーリズム事業	1,828	1,300
遺産保活事業	1,946	400
学術支援事業	4,044	2,000
市民連携事業	1,150	500
拠点施設事業	1,876	2,000
石炭博物館事業	12,342	10,000
そ の 他 事 業	990	0
小計	39,774	32,500
管 理 費	660	300
そ の 他 経 費	1,367	1,100
小計	2,027	1,400
経常費用計	41,802	33,900
当期正味財産増加額	1,302	0
法人税・住民税・事業税	▲ 859	▲ 150
前期繰越正味財産額	6,596	7,039
当期正味財産	7,039	6,089

単位：千円

■ 訃報 佐藤裕子理事

夕張在住の佐藤裕子理事は、癌の治療を続けていましたが、5月20日16時、入院先の札幌市の病院で逝去されました。

コロナ禍の影響により、葬儀は夕張市清水沢の斎場でご家族のみに行われましたが、NPOからは吉岡理事長・大橋副理事長・熊谷監事・北口事務局長・長澤事務局長が最期のお別れをして参りました。

佐藤理事は、夕張市の財政破綻が表面化した直後の2007年1月に、当NPOの設立準備組織とも言える「任意団体」炭鉱の記憶推進事業団の設立時から（その後3月にNPO設立・6月に認証登記）、役員として関わって頂きました。

吉岡理事長とは、1996年に観光関係の催事で知り合って以来の付き合いで、活動の表面にはあまり出てくることはありませんでしたが、夕張青年会議所理事長を務めたり本町商店街では老舗の文房具店を営んでいたこと

から、NPOの夕張探題としての役割を果たして頂いていました。

石炭博物館の指定管理を受けてからは、夕張駐在の役員として多大な活躍をして頂き、亡くなる1週間前にも病床から吉岡理事長に電話をしてくれていました。

現在、妹の淳子さんが石炭博物館で勤務し、街場とNPOを繋ぐ裕子さんの思いを継いでくれています。謹んで佐藤理事のご冥福をお祈りいたします。



佐藤理事(2007年1月・任意団体設立総会)

■ 新型コロナによる拠点休止

新型コロナウイルスの感染防止のための国道による緊急宣言発出を受けて、岩見沢夕張・赤平のNPO活動拠点も長期間の休止を余儀なくされました。この間、活動が滞り会員の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

。。。。。 人事異動

2020/01/01 ▷雇用更新/佐藤淳子（臨時職員＝夕張、2020/11/13まで）

2020/02/29 ▷退職/原田唯史（石炭博物館管理部長）

2020/04/01 ▷兼任/石川成昭（理事＝夕張）▷雇用更新/西田信夫（事務局長＝夕張、2021/03/31まで）、大倉加奈（事務局長＝赤平、2021/03/31まで）、横山真由美（事務局長＝岩見沢、2021/03/31まで）▷新採用/近藤英樹・千葉敦（臨時職員＝赤平、2021/03/31まで）

2020/05/20 ▷理事退任/佐藤裕子（逝去）